

(2) 講評

- 肯定的評価の割合をみると、14項目が90%以上、そのうち9項目が100%であった。今年度の目標は概ね達成できたといえる。次は、項目ごとにみていくこととする。

①学校経営

- 「学校は、子どもが主語の学校づくりに取り組めたと思いますか。」の肯定的評価は94%であった。たてわり活動、旅行・集団宿泊的行事、体育的行事をはじめ、学習の場においても、職員は「子どもはどう考えているか。」という視点で児童とともに計画を立てて、取り組んできた。実際の活動でも、子ども達が主体的に活動した。子どもが主語の学校づくりを意識して取り組んできた成果といえる。
- 「学校は、諸活動に対して複数での組織的対応ができたと思いますか。」という肯定的評価は89%と、前年度より高かった。昨年度から継続して、担当者任せにせず教職員全員で企画、進行に参加してきた。担当者が抱え込まず、全員で取り組んできた成果と考える。
- 「学校は、家庭や地域と連携し、地域と共にある学校づくりに取り組めたと思いますか。」の肯定的評価は94%であった。研究のテーマが「地域の担い手を育む～コミュニティスクールを活用した生活科・総合的な学習の時間の創造」であった。地域のことをより深く探究することができ、地域の人を講師に招くなど交流をすることもできた。本校の周囲は人的資源や物的資源（自然、施設など）が豊富にあり、それらを学習でも行事でも活用できている。地域と共にある学校づくりが進んできている。

②学習指導

- 「あなたは、「自ら考え、行動できる子」の育成に努めましたか。」の肯定的評価は100%であった。学習面では自由進度学習や総合的な学習、生活科をはじめ児童が自ら考えて学びを進めていく姿が見られた。行事でも児童が中心となり、取り組む姿が見られた。教員が研修を重ね、互いに相談し、協力し合いながら取り組んできた成果と考える。
- 「あなたは、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざして授業づくりに取り組めましたか。」の肯定的評価が100%であった。研究主任を中心に充実した研修、先進的な取り組みをしている学校への視察と共有、自由進度学習や異年齢单元内自由進度学習の実践を積み重ねてきた成果と考える。また、「あなたは、授業改善や教材研究、校内の研究のために学び続けましたか。」の肯定的評価は100%であった。教職員が放課後に教材研究をする姿や書物を読む姿、授業や児童に関する内容を話し合う姿が見られた。互いに高め合う風土が根付いてきた成果と考える。
- 「あなたは、体験活動や探究的な学習を多く取り入れられましたか。」の肯定的評価は89%であった。総合的な学習の時間では個人探究や地域の課題解決型学習などを実施している。他教科でも体験活動を多く取り入れてきた成果と考える。

③生徒指導

- 「あなたは、子どもの人権を守り、寄り添った生徒指導ができましたか。」「あなたは、子どもの意見を尊重し、自己選択・自己決定の機会を与えましたか。」の肯定的評価は、ともに100%であった。人権について学ぶ機会があり、教職員も意識した結果と考える。児童の話を受容、傾聴、共感的理解をした上で支援をし、児童の意見を尊重してきた成果

とも考える。

- 「あなたは、いじめ防止のための早期発見・早期対応に努めましたか。」「あなたは、児童の生活全般に関して、家庭と連携を取り、指導や支援に努めましたか。」の肯定的評価は、ともに100%であった。一人で解決するのではなく、管理職や担当者に報連相をして対応したこと、教科担任制により多くの教職員が児童と関わり児童に関する情報の共有が多くなったこと、学校だけでなく家庭と連絡を取り合い連携して対応した結果と考える。
- 「あなたは、「自ら考え、行動できる子の育成」に努めましたか。」「あなたは、子どもの意見を尊重し、自己選択・自己決定の機会を与えましたか。」の肯定的評価はともに100%であった。学習でも行事でも子どもファーストを意識し、子ども達の主体性を伸ばすことを意識した取り組みをしてきたといえる。
- 「あなたは、安全教育や事故防止に努めましたか。」の肯定的評価は100%であった。安全主任を中心に計画的な取り組み、ワンポイント避難訓練など実践型の訓練を実施してきた成果と考えられる。

④その他

- 「あなたは、この学校の職員で良かったと思いますか。」「学校は、働き方改革を進め、働きやすい職場になっていると思いますか。」の肯定的評価はともに94%であった。昨年度の時間外在校等時間の累計を比較すると大幅に減少している。教科担任制、複数学年での指導などをしてきたことにより、勤務時間内に教材研究や評価などをする時間が生まれた成果と考える。また、一人で抱え込まずに組織的対応をした成果とも考える。ふだんから雑談をはじめコミュニケーションがとりやすい環境となっている。教職員の働きがいと働きやすさが両立されている環境であると考えられる。

5 児童アンケート調査から

(1) ○肯定的評価が高かった項目(90%以上)

「あなたは、友達と協力して、学習や活動ができましたか。」93%

「あなたは、相手や周りの人を大切にできましたか。」93%

「あなたは、まわりの人に感謝して生活できましたか。」90%

○肯定的評価が比較的低い項目(70%未満)

「教科ごとに先生が代わるのは、よいことだと思いますか。」68%

(2) 講評

①学習

- 「あなたは、自分で学習を進められますか。」の肯定的評価は80%であった。学年ごとに見ると、高学年の肯定的評価が高い(6年生は100%)。昨年度より積み重ねてきた結果が表れていると考えられる。今年度も1学期から自由進度学習、個人探究といった自分で学習計画を立て、自分に合わせた学び方やペースで進めていく学びを実践してきた成果といえる。
- 「教科ごとに先生が代わるのは、よいことだと思いますか。」の肯定的評価は68%であっ

た。学年ごとに見ると、低学年の肯定的評価が高い。他学年と比べて抵抗が少ないからか（担任がほとんどの教科を教えることが当たり前と考えていない）、それとも、様々な先生と関わったり、様々な学び方を体験できていることに楽しさを感じたりしているからだろうか。今後慣れていくと、どの学年においても数値が高くなるのではないだろうか。

- 「違う学年と一緒に学ぶ学習をすることは、よいことだと思いますか。」の肯定的評価は84%、「あなたは、友達と協力して、学習や活動ができましたか。」の肯定的評価は93%であった。低学年ほど、違う学年と一緒に学ぶ学習に関する肯定的評価が高くなった（2年生は100%）。友達と学ぶことに関しては、どの学年も約90%と高い割合であった（6年生は100%）。

②生活

- 「学校は楽しいですか。」の肯定的評価は87%であった。昨年度が87%なので、同程度である。家庭環境、学習、人間関係など、どういう理由から楽しくないのか聞いていく必要がある。
- 「あなたは、自分で考えて、行動することができますか。」の肯定的評価は83%であった。本校の目標が「主体性」なので、おおむね達成できたと考える。
- 「あなたは、相手や周りの人を大切にできましたか。」の肯定的評価は93%、「あなたは、まわりの人に感謝して生活できましたか。」の肯定的評価は90%であった。昨年度より3%高い。たてわり活動、複数学年での学習、異年齢单元内自由進度学習など他者と関わりの合う、協力し合う活動を多く実施してきた成果と考える。
- 「あなたは、困った時に先生や家族、友達に相談できましたか。または、相談できますか。」の肯定的評価は、85%であった。昨年度より12%下がっている。どの学年にも相談できない、相談しづらい子どもがいることを念頭におき相談体制を整える必要がある。
- 「あなたは、健康に気をつけて生活できましたか。」の肯定的評価は80%であった。昨年度より3%高い。
- 「あなたは、自分の身は自分で守ることができますか。」の肯定的評価は85%であった。今年度は自ら情報を収集し、状況を判断し、主体的に安全確保の行動を起こせたかどうかを質問したが、自分で判断できる割合ととらえることもできる。
- 「あなたは、苦手なことも最後までがんばることができますか。」の肯定的評価は80%であった。粘り強く取り組める児童が多くいることがわかる。高い学年と低い学年では20%の差があった。高学年は高い数値であった。リーダーとして責任を持ち、困難なことも諦めず粘り強く取り組んできたこと、最後までやり遂げてきたこと、宿泊的行事などを経験していく中で粘り強さを身につけた成果と見ることができる。

6 保護者による学校評価から

(1) ○肯定的評価が高かった項目(90%以上)

「学校は、「自ら学び 心豊かにたくましく生きる とみせの子の育成」を目指した学校運営ができていますか。」92%

「学校は、お互いに助け合い協働する子を育てるために、子ども主体の学校づくりに努めていると思いますか。」97%

「学校は、家庭・地域と連携し、地域と共にある学校づくりを進めていると思いますか。」94%

「学校は、小規模校のデメリットを最小限にし、メリットを最大限生かした教育活動に努めていると思いますか。」94%

「学校は、学級担任だけでなく学校全体で子どもを育てていると思いますか。」94%

「学校は、体験活動や探究的な学びを取り入れ、社会で生かせる学びの力を育てていると思いますか。」92%

「学校は、生活全般や生徒指導に関して、家庭と連携をとれていると思いますか。」90%

「学校は、安全教育や事故防止に努めていると思いますか。(避難訓練・交通安全教室等)」98%

「学校教育全般に対して満足していますか。」92%

(2) 講評

・どの項目も70%以上、9項目が90%以上であり、「学校教育全般に対して満足していますか。」の肯定的評価が92%であったことから、概ね達成できたと考える。

①学校経営・運営

・「学校は、「自ら学び 心豊かにたくましく生きる とみせの子の育成」を目指した学校運営ができていますか。」の肯定的評価は92%である。「学校は、お互いに助け合い協働する子を育てるために、子ども主体の学校づくりに努めていると思いますか。」の肯定的評価は97%である。たてわり活動、全校遠足や修学旅行などの旅行・集団宿泊的行事、スポーツフェスティバルや持久走大会などの体育的行事、異年齢自由進度学習や複数学年での学習をしてきた。そのような活動をしてきた成果と考えられる。

・「学校は、家庭・地域と連携し、地域と共にある学校づくりを進めていると思いますか。」の肯定的評価は94%である。「学校は、小規模校のデメリットを最小限にし、メリットを最大限生かした教育活動に努めていると思いますか。」の肯定的評価は94%である。生活科や総合的な学習の時間については、地域の人的・物的資源を学習でも行事でも積極的に活用している。また、自由進度学習や異年齢自由進度学習などの学習方法を実践してきた。「失敗しても良いからとりあえずやってみる」の風土が、常に新たな学びの実践につながっている。そして、それらの実践を地域や保護者に説明したり、公開したりして理解してもらうための取り組みをしてきた結果ともいえる。

・「学校は、学級担任だけでなく学校全体で子どもを育てていると思いますか。」の肯定的評価が94%であった。教科担当制の実施、複数学年での学び、行事では教職員全員で企画、

進行をしてきた。そうした姿が保護者に伝わった結果と考える。

②学習指導

- 今年度取り組んできた自由進度学習、個人探究、地域総合学習などについて目標が達成できたといえる。
- 「学校は、自ら学ぶ子の育成に努めていると思いますか。」の肯定的評価は84%であった。教師主導の学習ではなく、自由進度学習をはじめ児童主体の学習になってきた成果が表れてきたと考える。一方で、「学校はすべての子の学習を保障するため、わかりやすい授業づくりに努めていると思いますか」の肯定的評価は78%であった。授業参観の機会の少なかったこと、学習のつまずきが見られることが背景として考えられる。今後は参観の機会を増やすと共に更に学力向上を目指して授業改善に力を入れていきたい。
- 「学校は、体験活動や探究的な学びを取り入れ、社会で生かせる学びの力を育てていると思いますか。」の肯定的評価は92%であった。豊富な地域の人的資源、物的資源を活用した生活科や総合的な学習の時間での学びをはじめ、他教科でも体験活動や探究的な学びを取り入れていた。児童が自ら課題を持ち、実験や調べ学習を通して最適解を見つけ、発信する学びが「社会で生かせる学びの力」を育てていると保護者に認識されたのではないかと考える。
- 「学校は、教科担当制により、児童の学ぶ意欲を高めることができていると思いますか。」の肯定的評価は75%であった。多くの保護者に肯定的にとらえられたと考える。保護者の意見では、「担任が教室に多くの時間いることが、子どもの安心につながる」「学習進度がわかりにくい」「担任以外での教科に関する相談窓口がわかりにくい」といった意見があった。教科に関する相談窓口（指導者が適任だと考えるが）、学習進度の知らせ方は教職員間で話し合った上で知らせていく必要がある。今年度ははじめた取り組みなので、今後も改善を重ねながら継続し、保護者に周知や公開をしていきたい。

③生活指導等

- 「学校は、自分を大切にし、他者を尊重する指導や助言ができていると思いますか」の肯定的評価は86%であった。不適切と考える「うざい」「きしょい」「殺す」「死ぬ」などの言葉を、子ども達が簡単に使用している場面も見られる。これまでも自分と他者を大切にするための取り組みや指導をしてきたが、今後も実践していく必要がある。
- 「学校は、しなやかに挑戦し続ける力を育てるために、児童に挑戦の機会を与えていると思いますか」の肯定的評価は84%であった。子どもの意見を尊重する場面を増やしてきた成果だと思われる。子ども達も自由選択、自己決定することで、挑戦しやすかったようだ。
- 「いじめ防止のための早期発見・早期対応に努めていると思いますか」の肯定的評価は73%であった。わからないと答えた方が11人いたので、「いじめ防止基本方針（HPで公開）」の周知をする必要があると考える。
- 「学校は、生活全般や生徒指導に関して、家庭と連携をとれていると思いますか。」の肯定的評価は90%であった。クラスルームや電話で連絡したり、家庭とも連携しながら対応したりきめ細やかな対応をしてきた成果と考える。

④全般

- 「学校は、安全教育や事故防止に努めていると思いますか。」の肯定的評価は98%であった。避難訓練、ワンポイント避難訓練、不審者対応訓練では実践的な訓練を進めていることが高い評価につながっていると考え。

7 三者比較から

- 「家庭や地域の連携」は、教職員、保護者ともに94%と高い数値であった。
- 「個別最適な学び」については、教職員と児童で20%の差があるが80%を超えているので高い数値といえる。「協働的な学び」については、90%超の児童が協力して取り組むことができていることから達成したといえる。「わかりやすい授業」については、今年度の学び方を継続していくことと保護者への公開や周知をしていくことが必要と考える。
- 「体験活動や探究的な学習」は教職員、保護者ともに高い数値であった。
- 「教科担当制」については、児童が68%、保護者が75%であった。今年度始めたばかりのため、今後継続していくことにより、全職員がどの子にも学習面・生徒指導面でかかわれる、また、学年間のつながりを意識した学習指導などができる等のメリットが伝わっていくと考える。
- 「人権尊重」については、いずれも高い数値であった。「いじめ防止の対応」については、教職員、児童が高い数値であった。保護者の調査によると、いじめ防止の対応が他に比べて低かった。わからない保護者が多かったので、どういう対応をしているか知らせていくことが必要だと考える。
- 「組織的対応」は、いずれも高かった。
- 「安全教育」は、教職員と保護者のほぼ100%と数値は高い。「自分の身は自分で守ることができる」児童は、85%であった。
- 「ウェルビーイング」は、教職員は高い数値であった。92%の保護者が学校教育全般に対して肯定的評価なので、保護者も高いといえる。